

# 厚生福祉

 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
 購読料金 月額税込み4,300円  
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。  
 ©時事通信社2014  
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
 kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

**インタビュー** 生殖補助医療 岸本佐智子・NPO法人「OD-NET」理事長 患者の声が励み、手探りの毎日……………2

**特集** STAP細胞 重要画像、博士論文と「同一」 小保方氏ら撤回同意—理研が中間報告……………4

ベビーシッターの男逮捕 預かった男児死亡、遺棄—神奈川県警……………6

全盲男性、78歳で博士号……………7

**中央省庁ニュース**……………8

目標達成へ工程表作成／児童福祉研究事業、公募制に ほか……………9

**進言(新潟県)**……………9

**特集** 都道府県・政令都市2014年度厚生・労働・環境関係予算⑨—宮城県、新潟県、京都市……………10

**事件・事故・裁判**……………13

弁当宅配「安否確認怠り母死亡」／東京女子医大病院で医療事故か ほか……………13

**社説拜見** 3月前期一年金財政の検証は堅実に……………14

**私たちの工夫** 地域型年金委員会発足の歩み……………16

**新刊図書の中から**……………17

**ニュースフラッシュ**……………18

## 「私は言った」

法人立の専門学校から徒歩数分のところに、新しい施設を造った。

私たちは学校創設当初より、現場に学生を入れる努力をしてきた。それは丁度、医学部に付属病院があるように、介護や療法士にも現場が必須と思うからである。しかし、本館は学生の足で歩いても十分ほどかかるので、より近場に現場をつくることになった。

創設より四十年弱を経た本体を持つため、そこは新設とはいえ、介護の専門性としてのアセスメントやチームケアも心掛けてスタートした。

ある日、作業療法学科の教員が、現場の高齢者の下肢拘縮を見つけ、介護士の一人に日常の体位

社会福祉法人新生活会  
 名誉理事 長・石原美智子



のあり方や関節稼働域訓練の方法、注意点などを伝えた。しかし、彼は心の中で「どうせ一日も続かないだろう」と思ったそうである。何故なら、

以前の職場では、それらの指示が看護師や介護士によって実行されることがなかったからだ。

その後、数日して再度訪問すると、自分の伝え通りのことが他の職員にも伝達されており、利用者

者に大きな改善が見られていて驚いたと同時に、介護士の力量を信頼出来ていなかった自分を恥じたという。また、自分一人の仕事の限界と、多職種連携が機能すると利用者の改善を共に喜び合える結果が待っていることを体験し、連携するため

の伝達方法の工夫が必要なことにも気付く。

以前の職場では、「自分は言った」と、結果が伴っていないでも自分の役割は終えたと思いい、結果が伴わないのは相手の問題としていた。そのため利用者への効果が表れてこなかったために、専門職としてはストレスだったのである。

医療や介護の教科には多職種連携の方法論がまだないと思われるので、職場のあちらこちらで「私は言った」と、責任は相手にあると思いい込んで、利用者の利益にならない個人プレイが盛んにおこなわれているかもしれない。

多職種連携は、お互いの職種の尊重と理解の基盤の上にあるので、うまく機能しているかどうかのパロメーターは、連携する人々の間で、仕事

が楽しく、利用者の幸せを共有できているかどうかだと思う。

多職種連携は、なかなか奥が深い。